

## 課題意識を明確にした数学授業の展開

～予想を通した教材の工夫～

長岡市西中学校

久住 勇也 (H30 年度)

現行の学習指導要領では、「数学的な見方・考え方」を整理し、その重要性を説いている。数学的な見方・考え方は生徒一人一人が目的意識をもって問題を発見したり、解決したりするための、物事をとらえる視点や思考の方向性である。したがって、授業の中で数学的な見方・考え方を働かせながら、新たな知識・技能の獲得や未知の問題に対する思考力・判断力・表現力などの資質・能力を育成していくことが求められる。しかし本校の生徒の実態と照らし合わせると、授業時における創造的な数学の学習が十分になされていないことが R4. R5 全国学力・学習状況調査の結果から分かった。

相馬氏は予想を取り入れた授業の意義として、①学習意欲を高める。②考え方の追究を促す③思考の幅を広げると位置付けている。そこで本研究は相馬氏が挙げている予想の意義①、②をもとに、授業者が問題提示の仕方を工夫しながら、生徒の問題に対するかかわる意識を改善していくことを目指す。具体的には提示された問題から、「生徒が課題意識をもてるよう予想する場面を取り入れること。」「予想をもとに、考えるべき課題を焦点化していくこと。」の2点を意識した教材構成を行う。この経験を積み重ねていくことで、予想をもとに課題を追求する、問題解決の方法が身に付いていくと考え、本研究主題を設定した。